

## 希学園 第406回 小4公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第406回公開テスト 小4国語 解説動画(2026年3月8日実施)	<a href="https://vimeo.com/1171252390/c82bd03220">https://vimeo.com/1171252390/c82bd03220</a>

1

4	室内	1	台地
5	通行	2	門前
6	区切	3	売
	り		る

2

1 a	た	2	この王子は
b	た	3	城
c	ら		上
d	か	(3 完答)	

4	助けて	5	エ
6	ウ	7	エ

8	④ 高	9	とびおり
(8 完答)	⑤ あ		

10	ゆめ
11	(記述題)

3

1	数	(1 完答)
2	つ	
3	体	
3	A ヒ	(3 完答)
B	小	

4	イ	2	ア
3	エ	5	ア
6	色		

7	一	(7 完答)
8	人	(8 完答)
8	応	
9	る	
9	種類	

2

11	下り道をこしらえておくほど
	用心深かった
	から。(同意可)

配点	
1・2	各2点×13=26点
3	6点
4	各4点×17=68点
11	
その他	
〈計〉100点	

1

- 1 「大地」とすると「小高い」とあわない。周囲の低地とくらべて台状にもりあがっている平らな土地のことである。
- 2 すなおに「門の前」と考えればよい。「前」の上の部分にくさかんむりのようにしないこと。
- 3 上の部分は「土」ではなく「土」である。「売買」の形で「はいはい」と読む熟語になる。
- 4 「部屋または家の中」である。同意語としては「屋内」がある。
- 5 「交通」と混同して「通交」としてはいけない。「通交」は国家間などでなかよくして交わりをむすぶことである。
- 6 「ものごとの切れ目、だんらく、きり」などの意味になる。

2

「強い賢い王様の話」 豊島与志雄 ※ 問題作成の都合上、一部表記を改めています。

- 1 aは、「心ひかれる」「思いをよせる」という意味の「したう」に「れる」がついている。bは、もつとも高いところ。cは、「目がくらむ」の形で、「強い光をうけて一時的に目が見えなくなる」「めまいがする」の意味で使う。dは、かげんしないで、出るかぎりの力を出して何かをすること。
- 2 本文はほとんど王子の身におこったことが書かれているが、最後の一文は「王様」になったときのことである。読んでいるときに、「王様」ということがふたたび出てきたことに気づいただろうか。
- 3 「目を開きました」とあるので、王子はそれまで寝ていたと考えられる。老人の杖の一振りて高い壁の上にあがった部分に「自分が今までいた庭」とあり、王子がいたのは「庭」なのだが、条件の字数やぬき出す場所にあわせてさがすと、本文の最後のほうに、王子がもどってきたとき、「城の庭の芝生の上」に寝ころんでいた、とある。これもまたいた場所だろう。
- 4 ここでの「知らない」は、知識や情報をもっていないということではなく、「自分とはかわりがない」という意味である。少しあとに「また下へおりようといっても」と同じ内容の「下へおりたくなかったからといっても」ということがあり、そのあとに「もうわしは助けてやらないよ」と書かれている。
- 5 1はウ、2はア、3はイがはいる。「しんみり」は心しずかにおちついていいるさまを表すので、どこにもあてはまらない。
- 6 Aはエ、Bはア、Cはイがはいる。AとBでまよったかもしれないが、どちらにも「動物」は入れられないし、Cにもはいらないだろう。
- 7 アの「あの山」と言って目ざした山は、「向こうの山」であり、「雲よりも高い山」だったのである。エの「あの山」は次に目ざす山になる。
- 8 「中略」のこのころの説明にあるように、王子は「次々に高いところへあがって」いるのである。すぐあとの文が言いかえになつており、「どんな高いところへでもあがつてやる」と書かれている。
- 9 このあと、じっさいにどのようにしておりたか、ということが答えになる。石を投げて何もじやまするものがないことをたしかめたあと、「力いっぱいにとびおりました」とある。
- 10 「本当」と対比されている。いま「芝生の上に寝ころんでる」のだから、「さつきまでのこと」は「本当」ではなく、「ゆめ」だったと考えられる。もし「ゆめ」であるなら、一つの中略のあとの「王子はふと目を開きました」というのも「ゆめ」だったことになる。
- 11 ◎の文の前半が「一番強い」の理由なので、「一番かしこい」の理由を書けばよい。「一番強い」の説明が「高いところへあがる」ではじまり、「ほど」でつないで「しっかりとしていた」となっている。これにあわせて、「ほど」と「用心深い」を使えばよい。答えの前半は「高いところへあがる」に対応する内容になる。

3

「なぜ? どうして? 算数のお話」 こぎきゆう ※ 問題作成の都合上、一部表記を改めています。

- 1 この部分の問いかけに対する答えは「数字がなかった大昔は、数えたいものを、手近にあるものに置きかえていた」である。
- 2 「中略」のあとに「体で表すよりも…」とあるし、さらにあとのほうでも、「体の部分や小石、なわの結び目」というようにならべられている。
- 3 すぐあとの例で説明されている。ヒツジと小石が「一対一の対応」になっている。AとBの順序に気をつけよう。Aには数えたいものがある。
- 4 1は「もの」で数を表す方法」の例を書きはじめの部分。2は「ヒツジを放牧するとき」に対して「ヒツジを集めるとき」のことが書かれている。3は、それまで書いたことをまとめている。
- 5 まず、「インカ」の話をはじめている【エ】が最初にくる。【イ】の「この国」は「インカ」をさしているから【エ】のあとにくる。【イ】の「文字や数字をもっていないませんでした」をうけて、「そこで」と言っている【ア】が次にくる。【ア】で出てきた「なわ」の「結び目」の説明がある【ウ】が最後になる。
- 6 このあとの説明で「緑」「黄色」という例を出している。
- 7 「身近なもの」と組み合わせる数をくらべることを「一対一の対応」という、と説明したあと、さらに「なわの結び目」の例をつけくわえ、ふたたび「一対一の対応」ということを使ってまとめていっている。
- 8 「二本のえんぴつ」「二人の人間」「ヒツジ二頭」「リング二つ」をすべて「2」という数字で表せる、ということを示しているが、これを言いかえているのが、「人間がもの種類に種類がなく、数だけを思いうかべる」の部分である。
- 9 「どんなもの」の例として「えんぴつ」「人間」「ヒツジ」「リング」があげられており、これらがすべて同じ数字になるのは、「もの種類」と関係がないからである。